



ペンテコステ

2023年11月1日

(毎月1回1日発行)

カトリック谷山教会

〒891-0113

鹿児島市東谷山 2-33-13

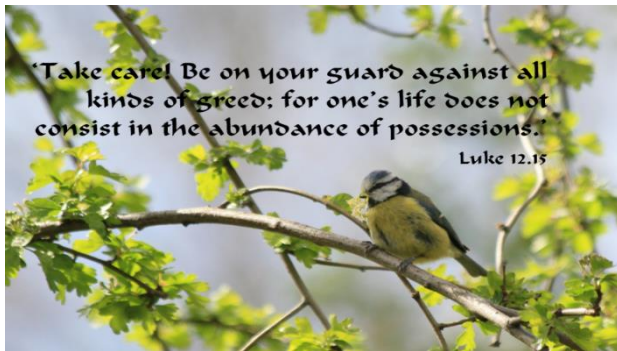
TEL・099-268-2084

FAX・099-284-5738

E-Mail: taniyama-cc@lagoonne.jp URL: <https://catholic-tc.jp>

発行人: 盛 克志神父 編集委員: 上原敏子、上釜照美、徳永珠美

本当の幸せはどこに… 主任司祭 ライモンド 盛 克志



日々生活のただ中で、ふと、幸せって何だろうか、という考えが私たちの頭をよぎることがあるのではないのでしょうか。

英国の歴史家のトーマス・カーライルが次のような言葉を残しています。

「ここに一人の貧乏な人がいるとしましょう。ヨーロッパ諸国の大蔵大臣がお金を出し、同様にヨーロッパ諸国の家具商が高価な家具を提供し、食糧商人が珍味

の食料を提供して、みんなで寄ってたかって、彼一人を幸福にしようと試みたところで、幸せは数時間と長続きしないでしょう。何となればその貧しい人の胸の内は、物質だけでは満足することのできない、心の充足感を満たす貴いものを必要としているからです。」

「心の時代」と言われて久しくなりますが、どうしたら、その心をいつも、明るく、喜びと希望に満ちたものにすることができるのでしょうか？

昔から言い伝えられた話ですが、ある王様は、立派な宮殿に住み、毎日贅沢な食事をし、たくさんの家来にかしずかれています。何ら喜びがなく、一度も幸福感を味わったことがありません。そこで、思いあぐねた王様は、ひとりの目端のきいた家来に命じました。「国中で一番幸福な人、いつも明るく朗らかで喜びに満ちている者を探し出せ。そうしてその者の上着を、私のところに持って参れ。その上着を私が着てみよう。」家来は、国中を歩いて、一番幸福な人はどこにいるか探し回りましたが、なかなか見つかりません。しかしながら、衆目の一致する人が、ようやく見つかったのです。会いに行ってみると、その人はお百姓さんでした。畑で働いていましたが、やはり評判通り、にこにこして喜びに満ちているのです。ところがそのお百姓さん、上半身裸になって働いていたので、家来は結局、上着を王様のところに持って帰ることができなかったという話です。

あり余るほど物質的には豊かな王様が、「ない！ない！ない！喜びがない明るさがない、人の愛がない。」と思い、灰色の心を持って余っていたのに、上着一枚も持たなかったようなそのお百姓さんは、「ある！ある！ある！明るい太陽も、冷たい水も、すきっ腹にこたえられないほどの畑で食べる弁当もある、死んでも、私には行く天国もある。」とあって、にこにこ朗らかに暮らしていたのです。

イエス・キリストは言われました。「有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」(ルカによる福音書 12章15節)

見える世界の富、快樂、権力、それに埋没しそうな私たちの人生に、果たしてそれが全てなのか、今もこの御言葉が問いかけているのではないのでしょうか



今月の聖人から

11月1日は諸聖人の祭日



天では今日も、諸聖人たちが、キリストとともに高らかに神を賛美しています。私達もミサの叙唱で祈る

ように、「天の都エルサレムで神の栄光を仰ぐすべての聖人聖女とともに、感謝の祈りをささげ……賛美の歌を歌いましょう。賛美、栄光、知恵、感謝、誉れ、力、威力が世々限りなく私達の神にありますように、アーメン。」(ヨハネの黙示録) そよかぜカレンダー:澤田豊成神父様投稿より

11月12日 聖ヨサファト司教殉教者 記念日

1580年ごろ～1623年



ヨサファトは、ポーランドのウラジミルで生まれた。当時はローマ教会(カトリック)とロシア正教会との合同運動が起こっていて、ヨサファトの父はローマ教会に属していた。ヨサファトは、ヴィルノの商人見習いとして働いたが、彼の興味は商売よりも教会のことに向けられていた。そしてイエズス会の司祭と出会い、修道者になることを決意し、1604年に聖バジリオの修道会に入り司祭となった。彼の説教はすばらしく、人びとを感動させ、カトリックと一致するように導いた。

1617年にポロツクの司教に選ばれた後も、合同運動に力を注ぎ、この運動に反対する人びとから、幾度も命を襲われたが、それにも屈せず熱心に続けた。彼は、いつも「あなたたちの牧者として小羊のために喜んで命をささげます。教会の一致のために……」と言っていた。この言葉のとおり、彼は反対者から暴行を受け、殺された。彼は、教会一致の使徒と呼ばれている。

(聖パウロ女子修道会聖人カレンダー)より

11月死者の月に寄せて

主よ永遠の安らぎを
～また会う日まで～

シスター・安藤克子

勝くんは、洗礼のお恵みを授かりましたね。そして主の祈りが大好きでした。

2023年5月7日、ヨゼフ・今川勝くんは御父の家へ帰って行きました。その3日前「麦の芽福祉会」の川瀬さまより電話を戴き、勝くんの入院している病院より面会許可があったので私を迎えにいらして下さるとの事でした。

病室で横たわっている勝くんは、意識があるのか無いのかの状況でした。私は、「勝くん」と呼びかけ「主の祈りを祈ろうね」と勝くんの胸元に顔をつけ、小声で祈りました。

祈り終わった後、勝くんの顔の表情が変わったのを川瀬さまと私は見せていただきました。

栃尾神父さま司式による吉野教会での通夜、葬儀は、棺が聖堂の真ん中に置かれ、参加者の座席は棺を囲むように丸く配列されているのは、感動的でした。

栃尾神父さま、吉野教会共同体の配慮と暖かさ、麦の芽ファミリーの勝くんへの親しさと優しさが、聖堂、教会全体を包み込んでいる感じでした。勝くんは今も、これからいつまでも、御父の家で、そして麦の芽ファミリーと共に過ごさせていただけの事は感謝です。

「主の愛は限りなく、主の救いは溢れるばかり」(完)

ああ主よ、わたしをあなたの平和の道具にしてください。

憎しみのあるところに、愛をもたらすことができますように。

争いのあるところにゆるしを、分裂のあるところに一致を、

疑いのあるところに信仰を、

誤りのあるところに真理を、

絶望のあるところに希望を、

悲しみのあるところに喜びを、

闇のあるところに光をもたらすことができますように。

ああ主よ、わたしに、

慰められるよりも、慰めることを、

理解されるよりも、理解することを、

愛されるよりも、愛することを求めさせてください。

わたしたちは与えるので受け、ゆるすのでゆるされ、

自分自身を捨てることによって、永遠の命に

生きるからです。アーメン

「アンジの聖フランシスコの
平和を求め祈り」
主任司祭・盛克志提供

谷山教会の信徒の皆様、涼しいを通り越して寒い日々が続きます。ご存知の通り、陰暦の十一月は「霜降月」、「神帰月」、「神楽月」とも称ばれています。神無月から神様が戻って来る月とも云われます。教会では諸聖人、死者のための祈りの月でもありません。ここ最近はずつかりと定着してきた感のある「ハロウィン」祭りですが、流行り初めの頃のフィーバー振りに比べて少しは落ち着いてきたようにも思います。「諸聖人」の前夜に催される「ハロウィン」はイギリスのケルト文化と融合したものに由来するのですが、このイベントはクリスマスに続いて日本の社会に定着してきているようですね。そういえば、「イースター（復活祭）」という言葉もよく耳にします。いずれにしろ、日本の社会の中でキリスト教に由来するお祝いが一つの祭りとして認識されていることは良いことなのですが、私たちカトリック者にとっては違和感というか、何かしっくりこないものを感じたりします。キリストの教えが日本の文化に呑み込まれるのか、呑み込むか。どちらが良いかはわかりませんが、私たちがその橋渡しになればと思います。ヤコブ・福崎英雄神父

信じる

どんなに信じてても、信頼を裏切られるおそれのない相手は、神だけである。

どんなに信じられても、その信頼を平気で裏切ることのできるのは、悪魔だけである。

人間とは、その中間にあって、行ったり来たりする存在である。



ハンス・ハヌス師
「心に残ることはよりー

丹後の教会訪問記(8)

谷山教会 9班 岩崎正幸

明智光秀の娘玉(のちのガラシャ)は、すでに細川家に嫁いでいましたが、本能寺の変後、姿を隠さなければならぬこととなります。その場所が、京丹後市の味土野(みどの)というところでした。徒歩で訪ねるのは無理ということはわかっていたのであらかじめ話をしてきたのですが、ジラル神父様に話をしたら案内して下さるとのこと。ぜひにとお願いしました。加悦から昨日徒歩で訪ねた大宮聖堂の前を經由して山の中に入っていきます。コロナの前までは、大宮聖堂を出発して味土野まで歩くという行事もあったらしいのですが、味土野は本当に山の中でした。ジラル神父様の車は、細いくねくね道をどんどん上っていきます。対向車とかろうじてすれ違うことができるほどの道幅です。大宮聖堂を過ぎてから、30分くらい車にのっていたでしょうか、ようやく山の頂上に着きました。玉が2年弱隠棲生活を送ったとされる場所です。こんなに山奥なら確かに簡単には見つからないだろうな、とは思いますが、単なる山の上ではなく、周りの山から監視できる場所でもあったのです。すぐには行き来できる位置ではないのですが、何かあれば見えたのでしょう、細川家の家来が玉のようすを常に見守っていたのです。玉はここでの生活の中で、地元の子供たちに字を教えたり、ということもあったそうです。玉はこの味土野での生活を送っていたとき、まだ信仰を得ていませんでした。ガラシャという名をいただき洗礼に与るのは、ここでの幽閉生活を終え、忠興との生活に戻った3年後のことです。この味土野での生活が信心にいたるきっかけの一つであったのかどうかは定かではないのですが、全く関係がないとは言えないだろうな、とこの山に立ち思ったのでした。ここで玉が生活していたことはずっと隠されていたわけですから、何も残っていません。かろうじて井戸があったとのことですが、それも今は跡だけです。気軽に訪れることができる観光地、というわけではないし、とくに見るものがあるわけではないので、めったに人は来ないのでしょう。結局誰とも会わずに味土野をあとにすることになりました。再び大宮聖堂の前を通り、京都丹後鉄道の駅まで送っていただきます。ジラル神父様もこのまま宮津に帰られるので、天橋立駅までということに。駅に着いて、ちょうど宮津行きが来るころだったのですが、鉄印をもらうために窓口で手続きをしていたら乗りそこねてしまいました。次の列車まではまだだいぶ時間が。そこで昨日と同じ手でバス利用をしました。これで宮津駅乗り継ぎ、舞鶴に向かいます。予定より遅れてしまいましたが、無事西舞鶴行きに乗車。本日泊めていただくレデンプトール会舞鶴修道院に向かいます。



(味土野、細川玉隠棲地に立つ碑)

令和5年(2023年)谷山教会11月の予定と祝日表(11月01日～11月30日)

| 日 時 | | 典礼と行事 | 朗読奉仕者 | 掃除当番 | 班会 | |
|-----|---|--|---------------|------|----|----|
| 1日 | 水 | 祭日 19:00 諸聖人 召命ミサ | | | | |
| 2日 | 木 | 6:30 朝ミサ / 死者の日 | | | | |
| 3日 | 金 | 10:00 初金ミサ/ 命日祭ミサ10時・ミサ後「合葬墓」完成祝別式 文化の日 | | | | |
| 4日 | 土 | 記念日 19:00 聖カロロ・ポロメオ司教 年間第31主日のミサ | | ⑤⑪ | 教会 | |
| 5日 | 日 | 6:30&9:00 年間第31主日/ 谷山教会バザー9:00ミサ後～12:00まで ベトナム人共同体ミサ14:00～ | ⑤⑪ | | | |
| 6日 | 月 | 6:30 朝ミサ | 今月の行事当番班は2・3班 | | | |
| 7日 | 火 | 6:30 朝ミサ | | | | |
| 8日 | 水 | 19:00 召命ミサ | | | | |
| 9日 | 木 | 祝日 6:30 ラテラン教会の献堂 朝ミサ | | | | |
| 10日 | 金 | 記念日 6:30 聖レオー一世教皇教会博士 朝ミサ | | | | |
| 11日 | 土 | 記念日 19:00 聖マルチノ(ツール)司教 年間第32主日のミサ | | | ⑥⑦ | 教会 |
| 12日 | 日 | 6:30&9:00 年間第32主日のミサ | | ⑥⑦ | | |
| 13日 | 月 | 朝ミサなし | | | | |
| 14日 | 火 | 朝ミサなし | | | | |
| 15日 | 水 | 召命ミサなし | | | | |
| 16日 | 木 | 朝ミサなし | | | | |
| 17日 | 金 | 記念日 朝ミサなし 聖エリザベト(ハンガリー)修道女 | | | | |
| 18日 | 土 | 19:00 年間第33主日のミサ/聖母の土曜日 | | ⑧⑨ | 教会 | |
| 19日 | 日 | 6:30&9:00 年間第33主日 *貧しい人のための世界祈願日 | ⑧⑨ | | | |
| 20日 | 月 | 6:30 朝ミサ | | | | |
| 21日 | 火 | 記念日 6:30 聖マリアの奉献 朝ミサ | | | | |
| 22日 | 水 | 記念日 19:00 聖セシリアおとめ殉教者 召命ミサ | | | | |
| 23日 | 木 | 6:30 朝ミサ | | | | |
| 24日 | 金 | 記念日 6:30 聖アンデレ・ジュン・ラク司祭と同志殉教者 朝ミサ | | | | |
| 25日 | 土 | 19:00 年間第34主日のミサ/聖母の土曜日 | | ⑩ | 教会 | |
| 26日 | 日 | 祭日 6:30&9:00 王であるキリスト 年間第34主日 9:00ミサ中堅信式(ミサ後お祝いと司教様歓迎会) | ⑩ | | | |
| 27日 | 月 | 6:30 朝ミサ | | | | |
| 28日 | 火 | 6:30 朝ミサ | | | | |
| 29日 | 水 | 19:00 召命ミサ | | | | |
| 30日 | 木 | 祝日 6:30 聖アンデレ使徒 朝ミサ | | | | |

<転出>9月30日 長崎教区長与教会へ 4班 南里 祐一・さおり・和奏・旺佑さんご一家

| | | |
|---------|-------------------|-------------------|
| ロザリオの祈り | 毎週火曜日 10:00～ | 7, 14, 21, 28日 |
| レジオ・マリエ | 毎週水曜日 13:30～15:00 | 1, 8, 15, 22, 29日 |
| 聖書と教理-Ⅱ | 毎週金曜日 10:00～12:00 | 10, 17, 24日 |

*ペンテコステ編集部は皆様からの記事を募集しております。(日頃思っていること、読書感想、写真等、何でも結構です。)